

表2 測定対象種

魚種	魚体測定	精密測定
アオメエソ	*	
エゾイソアイナメ	*	*
マダラ	*	
スゲウダラ	*	
キアソウ	*	*
キシン	*	*
ユメカサコ	*	
ヒラメ	*	*
サマガレイ	*	*
メダカレイ	*	*
ハマガレイ	*	*
ムシカレイ	*	
アカカレイ	*	*
ヤナギムシカレイ	*	*
イソカレイ	*	*
ミギカレイ	*	*
マカレイ	*	
マコカレイ	*	
シライトマキハイ	*	
スルメカ	*	
ヤナギタコ	*	
ミスダコ	*	
ズワイカニ	*	
ケガニ	*	

表3 魚体測定項目

魚類(有用種)	全長、体長、体重(精密:雌雄、生殖腺重量、熟度、耳石)
シライトマキハイ	殻高、体重
ヤナギタコ	雌雄別体重
ミスダコ	雌雄別体重
スルメカ	外套長、体重
ズワイカニ	雌雄、甲幅、体重、♂鉗脚高、♀外仔状況
ケガニ	雌雄、甲長、体重、♀交接栓有無、外仔状況

(3)有用種の採集状況

平成12年2月～平成14年3月までの採集データを用い、幼魚の加入動向について整理した。加入動向の指標には幼魚の分布密度(採集尾数/曳網面積)を用いた。耳石による年齢査定が可能な異体類については0～1才魚の分布密度を、それ以外は全長組成から新規加入群のサイズを推定し、この群の分布密度を使用した。対象種は、平成12年の沖底・小底漁獲金額の上位30種を基本とし、魚類ではアオメエソ、マダラ、エゾイソアイナメ、キアソウ、ヒラメ、ヤナギムシカレイ、ミギカレイ、無脊椎動物ではズワイガニ、ケガニとした。

結 果

(1)採集生物

平成13年4月～平成14年3月の水深別の合計採集尾数を付表1に示す。

採集生物のうち査定できたものは、メクラウナギ綱が1科1種、軟骨魚綱が6科11種、硬骨魚綱が84科160種、腹足綱が29科45種、甲殻綱が18科13種であった。

(2)幼魚の加入動向

以下に魚種毎の採集状況と幼魚の分布密度推移について示す。なお、200m深は平成12年2、3、4、5、7月のみの調査である。

ア. アオメエソ

ア) 採集状況

アオメエソは100、150、200、300m深で採集されたが、新規加入群は春季に100、150m深で比較的多く採集された。

イ) 採集サイズ(図2)

平成13年の新規加入群は、平成13年3月に全長80～90mmにモードを持つ群が採集され始め、この群の全長モードは、7、8月が90～110mm、11、12月が130～140mm、平成14年3月が140～150mmに見られた。平成12年の新規加入群の全長組成は明瞭でないが、平成13年3、4月には130～140mmにモードを持つ群が存在することから、本種は当海域に出現後約1年で130～150mm程度に成長することが推測された。また、平成12、13年加入群とも翌年10月以降は採集されなかった。したがって、春季に加入した群はその年の秋～翌年9月頃までが漁獲の主対象となっているものと推測された。

ウ) 分布密度(図3)

平成12、13年加入群の分布密度は、平成13年加入群の方が相対的に高い傾向にあるが、加入した年の9月から翌年3月までの漁獲量は大差がなく(平成12年9月～平成13年3月:272t、